

相談窓口の明確化 R7 ← → R8 体制(拠点)構築

課題(現在)

受け身=一方通行
(待ちの姿勢)

R6 相談延2,106件/年
実人数302人(うち発達障害195人)

0 ~ 6 歳	55 人	16 ~ 18 歳	10 人	40 ~ 49 歳	29 人
7 ~ 12 歳	39 人	19 ~ 22 歳	23 人	50 ~ 59 歳	17 人
13 ~ 15 歳	19 人	23 ~ 29 歳	25 人	60 ~ 歳	16 人
		30 ~ 39 歳	42 人	不明	27 人

そらいろ

機能強化

自発的=双方向=つなぐ
(出向く姿勢)

- ①どこでも相談を受ける
- ②フォローアップ

例)機能強化に向けた取組事業

①事前把握・初期アプローチ・初動連携

【幼保定期巡回】うべつくし園、宇部フロンティア大学と連携

②情報連携・初期相談・継続支援

【5歳児健診】地区担当保健師、幼保、学校、事業所、医療と連携

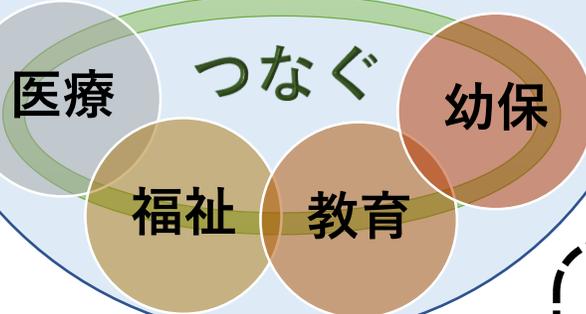
【就学相談会】保護者・こどもの就学前の相談

現場の協力体制構築



③ネットワーク構築

総合相談窓口



仮1)独立したセンター

仮2)ときスクへ統合
こども支援機能集約

仮3)相互連携構想
機能集約ネットワーク

連携する[場]の構築

整理すべき課題

R7.9月までに

①現在ある支援の機能精査
(そらいろの現機能整理・庁内各部署との支援整理)

R7.12月までに

②機能強化のための体制構築
(仮)事務職1名、専門職2名(心理士1名、CN1名)

R8.2月までに

③医療機関との調整(連携内容)
(例)発達検査(そらいろ無料、フロンティア6500/件、医療4,500円/件診療報酬)